



**N.S.ニュース速報A**

**NSDAP/AO : PO Box 6414**

**Lincoln NE 68506 USA**

**[www.nsdapao.org](http://www.nsdapao.org)**

#1126

13.10.2024 (135)

# アドルフ・ヒトラー

## 最愛の総統

パート3

### アドルフ・ヒトラー

### 個人的犠牲のリーダー

マイケル・ストーム

国家社会主義は、あらゆる革命運動と同様、個人的犠牲によって煽られる。我々の運動は、我々の指導者が権力闘争中に個人的犠牲の模範を示しただけでなく、彼の生涯を通じてそうであったという点で、ユニークである。

ヒトラーがまだ若かった頃、彼は遺児年金を妹のポーラに譲り、敵対する世界で生き延びるために独立した。自分よりも他人の必要を優先させるといふこの初期の例は、彼の人生において不変のものだった。

第一次世界大戦中、ヒトラーは一般兵士と苦楽を共にした。彼の連隊は前線で白い血を流した。戦力が低下するにつれて、各兵士はさらなる努力を求められた。ヒトラーほど多くのことをした男はいなかった。彼は常に余分な任務に志願し、最も危険な任務を引き受け、何十回も間一髪で死を逃れた。まるで自分の意志だけでドイツに勝利をもたらすことができるかのようにだった。彼は、十分な休息や休暇を取る時には、それを拒否し、代わりに既婚男性に休暇を与え、家で家族と過ごすことができるようにした。

背後から刺され、屈辱的な敗北を喫したヒトラーは、残りの人生をドイツを偉大な国にし、邪悪なヴェルサイユ条約を覆すことに捧げると誓った。この数年間の苦闘の中で、彼は若い頃よりもさらに大きな窮乏を知ることになる。

総統が大物実業家たちと会うために、党員がスーツを寄付しなければならなかったほど、彼の私服はみすぼらしかった。彼は謙虚に暮らしたので、すべての印が戦いに向かうことができただけでなく、芸術家や建築家になるという夢も捨てなければならなかった（当時はそう考えていた）。

党が指導者に求めた犠牲は物質的な利益だけではなかった。ヒトラーはしばしば、ドイツ全土と結婚していたため結婚できず、自分の家族の暖炉と懐を楽しむことができないと嘆いていた。さらに悪いことに、彼は自分が父親としての喜びを知ることができないことを知っていた。

戦争がドイツに押し寄せたとき、総統は都市再建の夢を断念せざるを得なかった。総統は軍服を着て、勝利が達成されるまで軍服を脱ごうとしなかった。総統は24時間体制で働き、常にやるべきことを増やしていった。ラステンブルクの "狼の隠れ家" と呼ばれる司令部は、夏は暑く冬は寒すぎる湿地帯の森に埋もれていた。総統を置き去りにして、娯楽も明るい光も勝利の甘い果実もなく、ドイツのために労苦を強いられた。

1945年春、総統地下壕でヒトラーは軍事会議から数分間離れ、戦後に建設することを夢見た壮大な国家社会主義都市の模型を眺めていた。

ソ連軍の砲弾が街に降り注ぎ始めたとき、総統はレオン・デグレレ親衛隊大将に、もし自分に息子がいたら、デグレレのようになってほしかったが、デグレレはハンス＝ウルリッヒ・ルーデル大佐とともに命を保たなければならない。総統は、ドイツのために究極の犠牲を払い、逃げずに最後まで敵と戦い、そして資本家とボリシェヴィキから、自分を裁判にかけるだけでなく、自分の体を切り刻むというユダヤ人の喜びを奪うと言った。

アドルフ・ヒトラーは、民族のために自らを、その全生涯を犠牲にした人物である。この偉大な美德は、国家社会主義の本質的な特徴であり、より大きな善のために個人を犠牲にすることである。だからこそ、一人の国家社会主義者が100人の民主党議員や共和党議員に値するのだ。それこそが、われわれをこれほどまでに強くし、これほどまでに恐れさせるものなのだ。

若いストームトルーパーの頃、私は地元の工場で週48時間働き、給料の全額を党に寄付し、本部を掃除し、デスクをこなし、請願書の署名を集め、食事を作り、テレビのインタビューを受け、そしてたまには地上のクズもとのストリートバトルを楽しんだものだ。フェア・ウエザー」な国家社会主義者のほとんどは、いざ仕事や寄付をする段になると、なかなか見つからなかった。驚くことではないが、彼らは皆、殺害予告や爆弾によってではなく、国家社会主義に対する信念の欠如によって運動から淘汰されたのだ。彼らは「パーティー」をしたかったし、他の同志の価値ある犠牲から栄光を得たかったのだ。これらのドローンはすぐに党を去り、そのたびに私たちは強くなった。

総統の犠牲と比べれば、私の金と汗と血は微々たるものだ。ほんの数年前に命を捧げたラインハルト・ゾンタークや、2年以上刑務所に服役してい

るゴットフリート・ケツセルのような真の国家社会主義者（さらに8年の服役を余儀なくされている）、そして、安全上の理由から名前を挙げることはできないが、彼らの存在なくして、今日、皆さんがこの新聞を手にし、この記事を読んでいることはなかつただろう。

われわれ国家社会主義者は、ただひとつの強さのテストによって男女を判断する。どれだけ賢いか（あるいはそう思っているか）、どれだけ金持ちか、どれだけ優れた戦士か、どれだけビールを消費できるか、それらはすべて何の意味もなさない！

私たち一人ひとりが、あなたも私も含めて、この重要な問いを自問自答しなければならぬ！

ハイル・ヒトラー

## 始まり

この第一次世界大戦における総統の最後の戦闘に関する記述は、『*Der Schulungsbrief*』1934年3月号に掲載された。1930年代にアメリカからドイツに戻ったヒトラーの戦友イグナーツ・ヴェステンキルヒナーからの情報に基づいて、クルト・イエゼリツヒが執筆した。

大いなる死がフランドル中にうめき声を上げる。装甲された死がいたるところにある。1918年の防衛戦では、トムの大地が震えた。砲弾の穴と塹壕の上を火の粉が転がる。イギリス軍はコミネス近郊のモシユ高地への攻撃に失敗。アメリカ軍の突撃部隊は、一握りの野戦灰色の戦意高揚のポケットを前に崩れ落ちる。戦車隊はドイツ軍の英雄の岩に激突し、命を落とす。

機銃掃射の轟音の中、榴弾砲、大砲、地雷、潜水機の弾丸が飛び交う。血は大地を肥やし、火薬の臭いが漂い、死者は死の安らぎさえ見いだせない。犠牲者の山から、運命は、ほとんど絶望的な人類のヒロイズムと恐ろしい苦悩の記念碑を形成する。

世界は憎しみで結ばれている。破壊！破滅！大砲の熱い砲身から叫ぶ。

フロントもそうだった！

塹壕や狐穴に散在する連隊の英雄たちは、機関銃やライフルを携え、掘り返された大地の溝に押し込められ、血を流しながらも戦い、罵りながらも退却せずにいる！

1918年10月19日の夕方、瀕死の重傷を負ったフランダースの風景に光が差し込む。しかし、死はまだ眠らない。死はまだ眠らず、黄赤色の閃光を放ち、猛り狂う。兵士たちは疲労困憊し、泥に濡れ、疲れ果て、飢えている。一人一人が塹壕から立ち上がり、砲弾の穴から穴へとよるめきながら後方に向かっていく！敵はさらに砲火を強める。

連隊スタッフのランナーである三銃士が死と戦う。後方のどこかに廃墟となった砲兵壕がある。そこは野戦厨房が立つはずの場所だ。彼らは鉛の雨の中を一步一步前進する。

色とりどりのロケットの不気味な光が前線の間で輝いている。そして、ついに砲弾と空の砲弾箱を見つける。野戦の厨房にたどり着いたのだ。三銃士は安堵のため息をつく。

しかし、敵のバッテリーは再び猛威を振るう。衝撃に次ぐ衝撃、震える閃光が土の噴水を引き裂く。木片や鉄片が泥とともに舞い上がり、壕の屋根に落ちる。30分、30分と過ぎていく。もう前線に戻ることは不可能だ。兵士たちは壕の中で身を寄せ合って待つ。そして、右も左も、前も後ろも、鋼鉄の浴槽の中で、最も恐ろしい破壊技術の効果が猛威を振るっている。バイエルンの三銃士は、大砲の砲身の恣意性によって土の穴に閉じ込めら

れる。彼らの命は、もはや英雄的行為と彼ら自身の意志に左右されるものではなく、単に偶然の無意味さと、イギリス軍の敵を撃墜しようとするドイツ軍砲の背後にいる無名の砲兵の従順さに左右される。

第一次世界大戦の最前線におけるこのような時間は、真の男を必要とする。多くの兵士が恐怖と絶望に苛まれながら座っていたとしても、1918年10月19日の夜、フランダースのモシユ近くの半分埋もれた壕に、この絶望を克服した一人の兵士が座っていた。伍長であり、走者であり、庇護者であり、良き仲間であった。彼はもう4年も前線に立っている。ここフランドルで、彼は火の洗礼を受けた。それ以来、彼は英雄的なボランティア精神のもと、困窮と死を乗り越えてきた。バイエルリワルト、ワイツシエーテ、ラ・バツセ、フロメル、ソナム、バポーム、ソワソン、ラフォンテーヌ.....これらは彼が経験した偉大な戦いである。誰もが絶望したとき、彼は毅然としていた。彼らが疲労困憊して倒れたとき、彼は自分の義務を果たした。そう、彼は自分の義務以上のことをしたのだ。彼はしばしば仲間に代わり、彼の身代わりとなって、戦いの地獄の中で死の危険を冒した。連隊の走者たちは、砲撃を通して前線に命令を伝えるときはいつでも、前へ、前へという彼の率先力を知っていた。破壊の猛威に包まれながら、彼が掩体から飛び出そうとしたとき、その声はしっかりと響いた：「今だ！」。彼は神経質には見えなかったし、他の者が神経をすり減らすと、彼は大きく澄んだ目で彼らを見つめた。

戦線の後方で彼らとともに数少ない平穏な時間を過ごしたとき、彼は祖国への愛を熱く語った！勝利を確信し、ドイツがいつか手にする運命について語った。

彼らは彼を理解できず、彼がそのように話すと首を振った。それにもかかわらず、彼らは彼の言葉の中に何か大きな真実を感じ取った。それが彼らを恐れさせ、無力にさせ、笑いを引き起こした。

「いつか、ずっと後になって、君は私のことを理解してくれるだろう！」。このような話し合いは、しばしば警報や新たな任務の命令によって打ち切られた。そして、彼は再び持ち場に立った。

今、3人はボロボロになった地下壕と一緒に座っている。1時間、1時間と過ぎていった。

その時、突然、予期していたように、炸裂した砲弾の閃光が壕に突き刺さった。その爆音に男たちは恐怖のあまり地面に投げ出され、半身不随になり、土を投げ上げた。壕の入り口に直撃したのだ。すべては一瞬の出来事だった。

そして、文明化された現代における戦争の悪魔的な恐怖が、ガスという目に見えない雲となって忍び寄ってきた！

前線で新たな攻撃が開始される一方で、ここの壕の男たちは、肺や目を蝕む腐食死と戦っている。前線では攻撃が激化している。壕の中では、夜が果てしなく続く…。

朝の薄明かりの中、一人の伍長が脱衣所に足を踏み入れた。数日後、病院列車が祖国に向かって走る。車両の中では、撃たれた戦士たちの隣に、盲目の兵士、昨日のランナー、ブリーダーがいた。

果てしなく続く戦いの中で、自分の塹壕の一区画と、死が自分の命と戦闘部隊への命令を無駄に追い詰めようとした砲弾の穴の小さな一区画より遠くを、健康な目で見ることができなかつた彼が、盲目の彼は今、見えるようになった。周りは夜だが、彼の心には聖なるものになるという名声が輝き、盲目の彼は今、この炎の光の中に、血で始まり血で終わる世界の出来事の果てしない広がりをはつきりと見ている。彼は民衆の宿命的な熱望を見、全世界の苦しみと惨めさを見る。そう、彼は救いの道を見ているのだ！

赤い暴徒が帝国の紋章に唾を吐きかけ、反乱が自由のボロ布を広げている間に、この男の中に意志が芽生える。より良い勝利の花輪を、ドイツはいつの日か、新しい民族の旗に掲げよう！

1918年11月9日、パースウオークの病院で、国家社会主義運動の歴史が始まった。

一人の男がここから出発してドラマーとなり、彼が人間から新しいドイツ人を作り出したところではどこでも、彼らは新しい信仰の印として腕を振り上げた。

# 第一次世界大戦におけるアドルフ・ヒトラー

## 総統の戦線同志（1914-1918）レポート

### 一人の男が12人の囚人を連れて行く

1914年10月10日、ヒトラーも所属していた「リスト」連隊とともに西部戦線に出発した。フランドル地方が最初の戦場だった。しかし、1916年、厳しい物量戦の最中に、私はアドルフ・ヒトラーと個人的に会うことになった。私たちは二人とも、それまで無傷で戦争を切り抜けてきた。ある晩、敵が激しく乱射し始めたとき、私たちはともに放棄された銃座にいた。そして、彼らは私たちにガスを "供給" してきた。一晩中、砲兵隊は私たちの陣地を砲撃した。夜が明けるまで、私たちは大丈夫だと思っていたが、ヒトラーが視力を失ったことを知った。彼自身、見えないと言い、痛む目の前で手をかざしていた。そして、後方の野戦病院に運ばれた。



私は、戦争におけるヒトラーの個人的な勇気を物語る出来事をはつきりと覚えている。エパニーでのことだ。ヒトラーは使者として進軍中、部隊から切り離されたフランス兵が占拠する森の斜面を通らなければならなかった。彼らのヘルメットのとっぺんは狐穴の上に突き出していた。アドルフ・ヒトラーは野戦メガネで彼らを認識し、ピストルを手にして、まるで仲間が後ろから近づいてくるかのように、後方に向かって手で合図をした。彼は12人のフランス兵を陣地から追い出し、司令部まで連れて帰った。

ヒトラーはしばしば孤独な時間にドイツの政治的将来について語った。とりわけ彼は、帝国が多くの小国に分割されることを懸念していた。ヒトラーはドイツの小国家を紙屑に例え、それを一枚一枚紐にくくりつけた。一陣の風で吹き飛ばされるかもしれない。しかし、紙屑をひとまとめにして束ねれば、どんなに強い風でも紙屑を動かすことはできない。私たちの中で最も単純な男でさえ、彼の言いたいことは理解できた。

イグナーツ・ヴェステンキルヒナー

## マテリアル・バトルにおいて

東部の有名な部隊が解放されたからだ。このことが何を意味するかは、物々しい戦闘の鼓動の中で何年もこの地に立ち続けた者、乾いた泥と血にまみれて毒ガスによる肺の刺戟を感じた者、連日、榴散弾で裂かれた傷がかろうじて傷跡を残す程度で大砲のスクリーン越しに死と競い合い、コーヒーを一口熱心に飲んだり、乾燥したパンの耳を最高級のケーキのように食べたりした者でなければ計り知れない。

バイエルン第6予備師団の編成で「リスト」と呼ばれる予備歩兵第16連隊は、ソワソン近郊で戦っているが、補給を受けておらず、血も弾薬も枯渇し、7週間も新しい服を着ておらず、強行軍で疲れ果て、雨でずぶ濡れで、休息を欲している。実際には戦闘で消耗しているが、実際には第7軍と第1軍の右翼後方の予備軍である。

そして実際には、5月26日の夕方、彼らは右掃射の最前線に立ち、現在敵を巻き込んでいると思われる。アイレットからエスヌ川を見渡す。指揮官はアントン・フォン・トゥブーフ少佐。連隊の9代目指揮官で、「リスターズ」を率いて5日目になる。彼は師団の他の部隊を引き連れて、有名で悪名高いシュマン・デ・ダルヌを越えている。

連隊全員がくしゃみをしながら走り、戦う。ここには険しい尾根、険しい高台、榴弾や弾丸で引き裂かれた「魔女の舞いの場所」があり、焼け焦げた大地からは裂けた木の根や枝が突き出ている。迫撃砲、機関銃、弾薬を配置するためには、それらの上に持ち上げなければならない。そして、大小さまざまな形をした赤熱した鉄が、絶えず空中を舞い、飛び交っている。連隊参謀から大隊へ、そして大隊間の電話は不可能だ。命令の伝達に関しては、メッセンジャーが文句のつけようがない。ほとんど夢を見ているような確実さで、彼はクレーターから飛び出し、鋼鉄で覆われた砲弾のスズメバチの巣の地獄のような騒音の中、穴、梁、死体を横切り、鋼鉄、火、土、煙の噴水が立ち上る爆轟の間を、喘ぎながら飛び回る。もし彼が、灼熱の死の混乱の中で、自分のメッセージや命令を適切な人物に伝えることができなければ、作戦全体が犬死となり、側面から戦うこの前進するくさびの鉄の意志は、失敗のうちに崩壊する。指導者の次に、彼は今、この戦いの運命と結果を、頭の中、ポケットの中、技術の中、そして勇気の中に抱えている。

連隊の最も疲れ知らずで、最も勇敢で、最も大胆不敵なメッセンジャーは、走り、跳び、報告し、命令を受け、スタッフからポイントへ、大隊から司令官へと駆け抜ける。

そして5日後、連隊は敵の前線を23キロ巻き上げ、果敢に突破し、数えた限りでは400人の捕虜、16門の銃、100挺の機関銃、4台のトラック、15台の軍需馬車、サツパーのキャンプを奪った。

「各指導者の功績に次いで、連隊のメッセンジャーたちがこの攻撃を見事に遂行したことに感謝しなければならない。

1918年6月1日、連隊は連隊長から最高ヨゼフ勲章を授与される。そして8月4日、フォン・トゥビュフ連隊長はアドルフ・ヒトラー伍長の胸に一等鉄十字勲章を授与した。

W.L.デイール

### 司令部バンカー直撃

正午頃、使者が新たな攻撃命令を伝える。ここでもアドルフ・ヒトラーは、危険な任務の遂行に揺るぎなく、たゆまぬ努力を続けている。彼はしばしば、激しい砲火を浴びながら最前線に立つ仲間のために、最も困難な任務を自ら引き受けた。

1時30分ごろ、砲兵の支援を受けて第2次攻撃が開始される。広場を横切って突撃する兵士たちの損害はひどいものだった。銃剣を手に最初の敵の塹壕に侵入し、捕虜を奪うことができたのはわずか数人だった。それ以上は進めない。第2大隊は、はるか前方の仲間を助けようとしたが、無駄だった。先頭のシューベルト予備中尉は最初の攻撃ですでに倒れた。

連隊長のエンゲルハルト中佐は、自ら北の森の端に向かった。野戦メガネで状況を把握し、敵を攻撃するのに最適な場所を探る。しかし、監視の目はすでに彼を発見していた。機銃掃射が雨あられと降り注ぎ、右と左の茂みを引き裂き、木々を穿つ。跳ね返りが宙を舞う。そこにアドルフ・ヒトラーとバツハマン伍長が駆け寄り、自らの体で彼を援護する。視界が悪くなった司令官は、驚いてヒトラーに尋ねた。「連隊長を二度失いたくないからだ」と控えめな答えが返ってきた。まるでそれがすべて自明のことであるかのように。

11月17日敵の激しい砲撃戦。その30分前、旅団長のグロスマン閣下は、血の気の引いたリスト連隊の救援を自ら命じた。「グロスマン司令官は最後に中佐にこう言った。この命令を受けるため、中隊長たちは連隊の司令部壕に到着した。スペースに限りがあるため、アドルフ・ヒトラーとその仲間たちは壕を一時的に出なければならない。2時過ぎ、またもや爆発音。連隊司令部壕を直撃したのだ。

アドルフ・ヒトラーが真っ先に助けに駆けつける。その時、恐ろしい光景が目に見え、飛び込んできた。廃墟の中で、通信下士官クライトマイアー、士官候補生ヴァインメナウアー、命令受領者が死んでいた。重傷を負ったのは連隊事務官のオストベルグ軍曹、士官代表のオベラーとマーティン。今、彼の目は尊敬する司令官を探している。彼も死んだのか？そこで彼は、中佐がうめき声を上げながら後ろに倒れるのを見、彼がつぶやくのを聞いた："祖国のために尽くしたかっただけだ！"

跳躍すれば、ヒトラーは彼の側にいる。同志バツハマンも同様だ。指揮官の切り裂かれた左手はぶら下がり、右足は血で真っ赤になっている。出血は激しく、迅速な行動だけが救いをもたらす。ヒトラーは長くは考えない。素早く、深い傷の上にコケ湿布を貼り、大量の出血を止めるために電話のコードで縛った。この応急包帯はうまく機能し、その目的を果たした。

連隊の仲間

## メツセンジャー

夜間、私はローの南部にいる第三大隊に二度、伝言を伝えなければならなかった。メツセンジャーのヒトラーが同行することになっていた。少しの間、我々は列車の堤防を歓迎の援護として使うことができた。しかし、すぐにそこを離れ、開けた場所を横断しなければならなかった。その道は、2つの前線銃座の横を通り過ぎた。敵が猛烈な砲火を浴びせてきたのだ。

当然ながら、この弾薬の消費は私たちだけのためではなく、むしろイギリス人の疑念をかきたてるに違いない砲のためだった。もし私一人だったら、完全に身を隠すことに何のためらいもなかっただろう。誰も私を恨んだりはしなかっただろう。私たちのメツセージは、大隊の軍事行動とは何の関係もなかった。数時間後にそこにあつたとしても、少しも違いはない。しかし、私の仲間は違った見方をしていた。彼は少しもためらうことなく--当然、あらゆる隠れ蓑を駆使して--魔女の大鍋を素早く通り抜けようとした。

メツセンジャーの場合、激しい砲火の中、開けた場所を横切らなければならぬことが多い。当然、悪い印象を与えたくないの、ついていくしかなかった。そしてうまくいった。私たち2人とも、怪我をすることなく危険地帯を脱出した。

帰路、敵の砲撃が再び始まったとき、私たちはまたもややつとの思いで砲に近づいた。もちろん、今回も止めることはできず、汗びっしょりだったが、怪我もなく、防護柵にたどり着いた。

その後のアラスの戦いでも、ヒトラーは何度か私に同行してくれた。

その頃、このメツセンジャーには特別な幸運があると漠然と感じていた。

前線の同志

## 無名の兵士

司令官のレクチャーの最中（司令官は情勢と陣地の改善について語った）、幕が開き、ヒトラーの使者が入ってきた。彼は敬礼し（洞窟の高さが低いので可能な限り敬礼した）、筆談でメツセージを伝えた。司令官は講義を中断することなくそれに目を通し、使者に退去のサインを出した。彼の背後で幕が閉じると、少佐は演説を中断し、幕の方に合図を送り、声

を張り上げてこう言った。"この使者を送るとき、私の連隊の最高の将校が行うのと同じように、任務がうまく遂行されることを私は知っている"。

この称賛は、当然のことながら、われわれを最も驚かせた。フォン・トゥビュフ少佐は、ごくまれにしか賞賛を与えない指導者として以前から私たちに知られていたので、指揮官が名前すらほとんど知らないような兵士に与えられたこの賞賛は、とりわけ重大だった。

アドルフ・マイヤー中尉

出典SSライツェフト、1943年12月



**NS KAMPFRUF**  
KAMPFSCHRIFT DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFBAUORGANISATION

September 1934      Gegründet 1973      26. April 2022

**Der Kampf geht weiter !**

Seit 70 Jahren nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung wieder da. Sie zogen in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Initiatoren von Movement, Vertriebung, Verfolgung und Verfolgung haben nicht aufgehört, die Kräfte der gesamten Welt unseren heldischen Führer Adolf Hitler zu vereinen.

Alle Nationalsozialisten sind weniger arbeitslos, Völkern- und Rassenbewusstsein haben Schüler im Kampf um die Erlangung unserer weisen Völker.

Die Bewegung ist zwar stärker geworden, aber die Größe des bekämpften Volkes ist heute noch viel größer als in der Vergangenheit.

Der vorwiegend gegen sie abzu, das Volkstum – gegen alle weissen Völker (V) – zu bekämpfen, keine Mittel sind Ermordung, Überforderung und Zusammenbruch.

Ob "Hitler" oder "Hitler", ob im Wahlkampf oder im Streik, ob im Propagandakampf bewaffnet oder auf einem Schulhof, unsere Art, jeder Nationalsozialist ist sein Führer!

Hitler Hitler  
Gottfried Lauck



**TROTZ VERBOT NICHT TOT!**



N.S.ニュース速報A  
[www.nsdapao.org](http://www.nsdapao.org)  
#1005      19.04.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート  
モリーへのインタビュー

第3部

NSDK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものですね。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けますが、主にAdolf Hitler and the Army of Mankind ([www.mourningtheneicent.com/truth.htm](http://www.mourningtheneicent.com/truth.htm))に集中して取り組んでいます。現在21ページですが、まだまだやる事がたくさんあります。第二次世界大戦の軌跡は、まさに情報の地雷原です。1つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も



the **NEW ORDER**

Number 179 (197)      Founded 1978      April 26, 2022 (133)

**The Fight Goes On !**

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defamation have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware countrymen and racial kinemen fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk, this means: whether in election battle or street battle, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind, every National Socialist must do his duty!

Hitler Hitler!  
Gottfried Lauck



**TROTZ VERBOT NICHT TOT!**

# NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期行物  
多くの言語の何百冊もの本  
多くの言語の何百ものウェブサイト

<p>SS Defender against Bolshevism by Reichführer SS Reichler Riemer</p> <p>FOR DANMARK! MOD BOLSEVISMEN!</p>  <p>Translated from the SS Original</p>	<p>Julian Steiniger der Ritzener Pflanz Book</p> <p>The Poisonous Mushroom</p>  <p>Translated from the Third Reich Original Der Giftpilz</p>	<p>Reichlich Reclam</p> <p>Hitler in Italy</p>  <p>English / German    Deutsch / English</p>	<p>SS Viewpoint – Vol. 9 Wife and Family</p> 	<p>Theodor Fritsch</p> <p>The Sins of High Finance</p> 	<p>Luftwaffe War Art Die Luftwaffe im Bild</p>  <p>English – German / Deutsch – English</p>
---	---	---	--	--	--

**BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!**  
[www.third-reich-books.com](http://www.third-reich-books.com)



**NSDAP/AO**  
**Fight Back!**



[nsdapao.org](http://nsdapao.org)  
Contact us to  
find out how  
YOU can help!